

生活環境と健康の科学

授業概要

健康に影響する生活環境要因に関して学ばせる。疫学研究、遺伝的要因の解析、予防医学について概説する。

担当教員

紫藤 治（主担当）	教授・環境生理学
神田秀幸	教授・環境保健医学
嘉数直樹	准教授・環境予防医学
山崎雅之	学内講師・環境予防医学

授業の形式

オムニバス形式を基本とする。

教育内容

1. 今後予想される地球温暖化による環境変化ならびに健康への影響を概説する。また、発症が著増すると推察される暑熱障害の発生機序およびその予防のための対策を解説する。
2. 集団における健康と疾病異常を測定する技術を習得させる。
3. 疾病の発生要因（宿主、病因、環境）を明らかにするための基礎的知識を習得させる。
4. 疫学調査方法の基礎的知識を学ばせ、具体的な調査計画を立てる能力を養う。
5. 集団を対象とした疾病対策の立案、実施、評価に必要な知識を習得させる。
6. 世界およびアジアにおける生活習慣病対策、特に肥満と動脈硬化性疾患について概説し、日本における生活習慣病の歴史、多発要因とその予防対策について、遺伝・環境の相互作用の観点から講義を行う。

成績評価の方法

授業態度とレポートにより評価する。

使用テキスト・参考文献

適宜参考文献を紹介する。